



日経ビジネスに見る「経済先読み・解説」 185号

経営コンサルタント 栗田 剛志 13.4.01

発行元：m9コンサルティング

<http://www.m9consulting.biz>

このメールマガジンは、今週発売となる日経ビジネスの中から気になった記事を選び、私なりの視点で考えたことについてお伝えするものです。会社での朝礼時のネタ、取引先との会話、同僚との間の話題づくりにお役に立てたらと思い、毎週月曜日に発信いたします。

「日経ビジネス2013年4月01日号 no.1685

『あなたを救う病院～BEST20』より

【休むことも重要な仕事です】

健康は、失われて初めてその大事さに気が付きます。

小指に負った切り傷ひとつで、その不便さに辟易するくらいですから、大けがや大病をした時のダメージは計りしれません。

以前、私がサラリーマンだった頃、十二指腸潰瘍で3週間ほど戦線離脱することがありました。

夜中に胃が痛くて我慢できなくなり、朝一番で病院に駆け込んだら、すぐに処置しないと大変なことになるとのことで、即入院が決まりました。

タイミングは最悪で、お中元商戦が始まる直前です。取引先にも会社にも迷惑をかけてしまいます。

それでも背に腹は代えられず、会社に事情を話すと、「ゆっくり休んでこい。お前の仕事などどうにでもなる」と、ありがたいやらさみしいやら複雑な心境になる言葉をいただき、私の入院ライフが始まりました。

退院し仕事に復帰してみると、上司の言う通り、現場は普通に回っています。私1人いなくとも、何がどうなるわけではありません。どうにかなるのが組織なのです。

また、有給休暇とは、とてもありがたいものです。3週間丸々休んでも、お給料はきちんと指定の口座に振り込まれます。

今の私は、環境が全く異なります。仕事をしなければ、私の収入はそこで途絶えます。私がいただいた仕事を、私以外の人に簡単には任せられません。

仕事をいただける限り、土日もなく、昼も夜もなく、延々と働き続けます。好きなことなので、苦になりません。

しかしこれは、自分の選んだ道とは言え、ものすごく危うい状況にあるのです。

今週の特集は、私たちが病気というリスクに対してどのように向かいあうべきかについてです。

IT関連企業「オーシャンブリッジ」の高山社長は、2年前の40歳の時、悪性の脳腫瘍(グリオーマ)が見つかりました。

高山社長はこう言います。

「脳腫瘍だと確定したのは、東京女子医大の外来診察でした。手術を受けた主治医の村垣先生から『グレードはⅢかⅣですね』と言われました。先生から渡された説明書に『グレードⅢなら一般的に25%、Ⅳなら7%しか生きられない』と書いてあるのを見てびっくりしました。手術に定評がある東京女子医大ですら、

Ⅲで約70%、Ⅳなら約19%しか生きられません。死について真剣に考えるようになりました。自分の墓もイメージできます。必死に命を先延ばししようと、もがいています。『人生80年』なんてことが言えなくなりました。

起業から10年間、自分の目標と会社の目標はイコール。ビジネスが大好きで、アーリーリタイヤなんてそれまで考えたこともありません。週末も昼も夜も仕事をしていました。創業経営者って、任せられないんですよ。自分でやりたくなっちゃう。

自分の命が一番。いい意味で会社と自分を切り離せるきっかけになりました。病気を経験して、会社を客観的に捉えられるようになったんでしょうね。

今は昔のような仕事中心の生活さえしなければ、生きられる自信があります。幸い会社は好調ですが、重責を全うできないと判断したら、その時は自分の命を優先します」

ビジネスのために命すら投げ出すのではないかと思うような社長さんがいます。命を懸けるくらいに事業にのめり込むことも必要ですが、命がなければビジネスを成就することができない上に、悲しむ人をたくさん作ることもなります。

「エーワン精密」という会社をご存じでしょうか。コレットチャックという部品製造を手掛け、2008年6月期まで38年間、売上高経常利益率35%超えを続け、リーマンショックが直撃した2009年6月期以降も、常に2割以上の経常利益率を確保している伝説の中小企業です。

1代で超高収益の部品製造業を作り上げ、株式上場した創業者、梅原氏(74歳)を襲ったのは、心の病でした。

梅原氏はこう言います。

「小学校を出てから12歳でネジ工場に入ってね。独立したのが26歳の時だった。ずーっと仕事をしてきたんだ。2ヶ月も休んだのは、うつ病になった時が初めてだったよ。

うつ病になったのは、ちょうど上場準備をしている頃だね、思い返してみると、時々眠れなくなったり、食欲がなくなったり、幻想のようなものを見たりしたことがあったかな。あれは兆候だったんだろうな。

いざ上場するってなると、今まではモノ作りのことばかり考えていればよかったのに、証券会社とか監査法人とかと付き合い合おう。いろいろよくわからない奴もやってくる。

その頃からおかしくなってきたね。『俺のやっていることは正しいんだろうか。社員に迷惑をかけちゃうんじゃないか』ってね。で、従業員に言われて、病院に連れていかれて。うつ病だってわかったんだ。

自分で言うのもなんだけど、俺は成功者の部類だと思うんだよ。それでもうつ病になる。10人に1人はなる病気だからね。特に経営者っていうのは、うつ病になって当たり前だよ。最後は自分一人で大きな決断をしなきゃいけない。特に神経が繊細で、責任感があって、酒を飲んで発散できない人。こういう人は気をつけてほしい。俺はそれに全部当てはまっているんだな」

うつ病は精神的に弱い人がかかる病気といった思い込みは、単なる偏見にすぎないことは明らかです。

うつ病にまで行かなくても、悩みを抱えた状態では心理的な視野狭窄に陥ります。この状態であると、どんなに頭のいい人でも判断ミスを犯しがちになります。

エーワン精密の梅原氏はこう言っています。

「うつ病を防ぐには、自分で自分に優しくしてあげること。軽いうちに休んで、一回自分を重荷から外してあげることだよ」

放っておけばどこまででもがんばってしまう経営者は、「休むこと」を重要な仕事レベルにしておく必要があるのです。